

木材株式会社を設立、取締役となっている。39年からは全国の貨物流動の便を促進するために静岡、熊本、伊勢、広島、山口、浜松、会津、福島、白川、山梨の各地に軽便鉄道会社設立する、といった精力的な事業家活動をしている。

日本の資本主義生成・発展期に登場する雨宮は、恐らく俗にいう眼から鼻にぬける類いの鋭い感もち、さぞかし弁舌もさわやかであったろう、などと考えられるが、人物像としては何か1860年にプロイセンに登場し、ベルリンを足がかりにして主として東および東南ヨーロッパとロシアを舞台に活躍したストロウズバークを髣髴とさせるものがある。このノートはたまたま月報の余白を埋めるために編集後記の代用としたものであって、「研究ノート」にも値いしないものとなったことをお詫びしておきたい。なお、資料を心よく貸与していただいた関東学園大学の白柳夏男さんにお礼を申しあげたい。

〔所 報〕

○ 1976年1月1日 鍋島事務局長から仁科教務課長あてに昭和52年度備品要求（神田校舎社研分室用の机・椅子）を提出。

○ 1月18日 大友所長から高橋学長あてに昭和52年度予算要求書・予算要求明細書・事業計画書を提出。

○ 1976年度第9回事務局会議 1月29日（土）午後5時30分～8時30分 新宿西口会館・随園 議事 1. 第8期（1977～78年度）事務局の構成について 2. その他。

○ 梶井義雄・森下澄男・高橋長太郎・三先生古稀祝賀会 3月5日（土）午後5時30分～8時30分 神田一ツ橋・如水会館 参加者57名。参加者一同の記念の寄せ書きと当夜の写真を編集したアルバムを、後日三先生に贈呈した。

○ 実態調査「不況下の鹿児島臨海工業地帯の開発状況の調査」 3月7・8日 住友金属工業鹿島製鉄所、鹿島・神栖両町役場 参加者5名。

○ 春季合宿研究会 3月13日（日）・14日（月） 広沢寺温泉・玉翠楼 参加者23名。報告 福島新吾所員「見せてもらったアメリカー日本への配慮と疑惑一」、宮田三郎所員「西ドイツでの市民生活実感一個人の権利・義務について一」、加藤幸三郎所員「イギリスにおける日本研究の動向一シェフィールド大学日本研究所よりみたる一」

○ 森下澄男所員は定年退職のため、木崎喜代治所員は京都大学に転出されたため、江口英一・長幸男所員は非常勤講師の職を辞されたため、3月31日をもって所員の委嘱を解かれた。

○ 1977年4月1日 新年度を迎え、社研運営委員会および事務局は次の所員によって構成されることになった。

運営委員会——所長・大友福夫，経済学部長・西田勲，第一部長（総合理論部門）・内田義彦，第二部長（現状部門）・打田峻一，第三部長（歴史部門）・古島敏雄，事務局長・二瓶敏，事務局長前任者・鍋島力也，所長委嘱・石渡貞雄・佐々木金三・山田一郎・今田治弥。

事務局——事務局長・二瓶敏，研究会担当・加藤佑治・内田弘・池本正純，文献担当・森下健三・鈴木直次，編集担当・森宏・宮坂宏・蔵下勝行・池田博行・津村英文，財政担当・宮田三郎・矢吹満男，神田分室係・宮坂宏。

○ 第1回事務局会議 4月16日（土）午後1～4時 生田校舎社研本部 議題 1. 事務引継ぎ，2. その他。

○ 第2回事務局会議 6月11日（土）午前10時30分～12時30分 生田校舎社研本部 議題 1. 当面の事業運営，2. 1977年度事業計画案・予算案，3. その他。

○ 第1回運営委員会 6月11日（土）午後1～4時 生田校舎社研本部 議題 1. 新所員委嘱，2. 所外研究員委嘱，3. 月報・年報贈呈先リストの整理，4. 1977年度事業計画案・予算案，5. その他。

○ 第1回運営委員会の議にもとづき，次の6氏が新所員として委嘱された（6月13日付）。——吉岡恆明（経・教授），鶴田俊正（経・助教授），酒井進（経・助手），小沼堅司（法・講師），田口冬樹（経営・講師），加藤俊彦（商・教授）。

○ 第1回運営委員会の議にもとづき，次の18氏が所外研究員（任期は1979年3月31日まで）に委嘱された（6月13日付）。——江口英一（中央大学経済学部），岡田和喜（日本大学経済学部），金箱卓夫（労働省統計情報部賃金統計課），木崎喜代治（京都大学経済学部），小林義雄（国学院大学経済学部），小林竜馬（立命館大学経営学部），斉藤公男（日本労働協会労働図書館），島崎晴哉（中央大学経済学部），真保潤一郎（高崎経済大学），岨常次郎（農林省統計調査部），長幸男（東京外国語大学），野原四郎（和光大学），平館利雄（青森大学），細貝大次郎（拓殖大学商学部），森下澄男，森田桐郎（東京大学経済学部），山下不二男（中央大学経済学部・日本労働協会），吉田暁（全国銀行協会連合会調査部）。

○ 定例研究会 6月18日（土）午後1～5時 神田校舎12A会議室 報告 Ⅰ. 矢吹満男所員「最近の恐慌論研究をめぐる諸問題—富塚・井村氏の所説を中心として—」，Ⅱ. 西川善介所員「入会権研究を通じて感じた戦後社会科学への方法論的疑問について—戒能通孝先生を偲んで—」。

○ 第29回定例所員総会 6月25日（土）午後1～4時 神田校舎8C会議室 議事 Ⅰ. 報告——1. 新所員委嘱，2. 所外研究員委嘱，3. 新運営委員会・事務局の構成，Ⅱ. 議題—1. 1976年度事業報告（鍋島前事務局長）および決算報告（水川前財政担当），会計監査報告（高橋七五三会計監査委員），報告を承認。2. 1977年度事業計画案（二瓶事務局長）および予

算案（宮田財政担当）、討議の結果原案通り承認決定。

なお、総会后「伊豆国」で懇親会が行なわれた。

○ 複写機の買替え 6月27日、旧リコーP P C-900をリコーD T-1700に買替え、生田本部に設置した。なお、この機会にコピー料金を改訂した。

○ グループ研究ならびに個人研究助成 第29回定例所員総会で決定された1977年度事業計画・予算にもとづき、6月28日、次のグループ研究ならびに個人研究に対して助成が行なわれた。

グループ研究——1. 地域経済学に関する研究（蔵下勝行所員ほか8名）、2. 現代資本主義論——転換期にたつ現代社会の多面的分析（玉城哲所員ほか10名）、3. 『資本論』と現代資本主義をめぐる諸問題（坂牧三郎所員ほか11名）。（1件あたり20万円。）

個人研究——1. 麻島昭一所員「財閥における資金蓄積構造の実証的研究——戦前の住友財閥」、2. 泉武夫所員「大正期日本資本主義の産業構造の研究」、3. 内田弘所員「『資本論』形成史の文献的＝理論的研究」、4. 斎藤高志所員「行動科学的労務管理論の批判的研究」、5. 柴田弘捷所員「現代日本における労働者意識の諸相」、6. 鈴木直次所員「戦後アメリカ資本主義の研究——1950年代を中心とする実証分析」、溝田誠吾所員「アメリカ鉄鋼独占成立史の研究——U. S. Steel Corporation の成立を中心に——」。（1件あたり7万5000円。）

○ 『社会科学年報』第11号（1977）が6月30日、時潮社から発行された。

○ 夏季合宿研究会 7月25日（月）・26日（火）草津温泉・奈良屋 報告 鈴木直次所員「戦後アメリカ経済の基礎的検討」、平川東亜所員「総供給関数と物価——ケインズ総供給関数のミクロ的基礎——」、森宏所員「最近の野菜の価格・流通問題——『孀恋方式』を中心に——」。

ひき続き7月26日、群馬県孀恋村の農産物流通方式の調査が行なわれた。参加者9名。

（事務局）

《編集後記》 無い袖が振れないままに、およそ半年目に溝田誠吾所員の論文をおとどけします。1,600字余の余白を兩宮敬次郎の年譜で埋めたことをおことわりしておきます。

（池田）

神奈川県川崎市多摩区生田4764 電話 (044) 911-8480 (内線33)

専修大学社会科学研究所

(発行者) 大友福夫
